令和７年度　江東区立亀高小学校　経営計画

校長　吉田　松寿

Ⅰ　教育目標

日本国憲法及び教育基本方針の精神と都及び区教育委員会の教育目標と本校の児童の生活や学習についての課題に基づき、人権尊重の精神や豊かな人間性を培う教育を推進する。また、学習指導要領に基づき、地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」を実現する体制づくりを図り、自らの課題や目標に真剣に取り組み、生きる力を身に付けた児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

〇明るく　生き生きとした子　「あかるく」
　自分らしさをもった活力あるこども
◎自分から考え　やりぬく子　「かしこく」
　創造性豊かに考え、主体的に行動し、最後までやりぬくこども
〇元気で　丈夫な子　「つよく」
　心身ともに健康なこども
〇思いやりのある　やさしい子　「あたたかく」
　自他を尊重し、互いに協力するこども

Ⅱ　経営方針

目指す学校像	〇児童も教職員も学ぶ楽しさを味わい、共に生きる喜びを感じられる学校 〇児童も教職員も夢や目標に向けて生き生きと活動できる学校 〇児童も教職員も生命の尊さを深く理解し、安心して安全に生活できる学校 〇児童・保護者・地域・教職員がともに歩む学校
目指す児童像	〇夢や希望をもち、心身ともに健康で、心豊かにたくましく生きる児童 〇自ら進んで学び、考え行動する児童 〇自分も相手も大切にし、他者と共によりよく生きようとする児童
目指す教師像	〇児童のよさを発見する眼、受け止める心、語り合う言葉を大切にする教師 〇切磋琢磨し、互いの専門性、指導力を磨き合い、共働する教師 〇教職員に同僚性が築かれ、一丸となってこどもたちのために努力を惜しまず、仕事に誇りをもっている教師
経営理念	本校では、「夢と希望をもち、心豊かにたくましく生きるこどもの育成～『こども真ん中』こどもの笑顔で学校・地域が輝くように～」を目指し、教職員の教育にかける夢と理想を大切にしながら、「学ぶ楽しさ、共に生きる喜びがあふれる学校」をつくる。 こどもも教職員も、自ら学ぶことが楽しいと感じられる学校、こども、教職員、保護者、地域の方々が、共に生きる喜びを感じられる学校を目指していく。 教育活動は、全てこどものためにあり、教職員の使命は、こどもの成長をよりよく促すことにある。「こどもたちのために最善を尽くす」を志とし、教職員の英知を結集し、一丸となって教育活動を進めていく。そして、こども、保護者、地域、教

経営理念	職員で実践を評価し、学校教育活動の充実・発展に向けて不断の努力を続ける。 「こども ど真ん中！」こどもを中心に教育活動を考え、様々な判断をする場面では、「こどもたちの成長にとって最善は何か？」を判断基準とする。以下、学校づくりに向けて大切にすることを３点示す。 **１　自ら考えることや、友達と学び合うことを大切にする学校づくり** 学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を推進する。また、体験的な学習を重視し、児童が自ら考えることや児童同士の学び合いを大切にした「わかりやすく楽しい授業」で児童の学習意欲を喚起する。 様々な体験的活動を学習に取り入れたり、教科横断的な学習、問題解決的な学習、探究的な学習を進めたりすることで、児童に豊かな感性を育み、思考力・判断力・表現力を向上させる。 ICT 機器の活用を通して児童の情報活用能力を向上させる。また、教員の研究や研修を充実させ、家庭との連携を図り、「亀高小スタイル」の実現を目指す。 **２　児童が安心して通える楽しい学校づくり** 全教員で個々の児童を見守り、よさを認めていく。児童が安心して通える楽しい学校づくりに向けて、人権教育や道徳教育を推進し、いじめや不登校対策を組織的に行う。また、行事や交流等、人との関わりの中で、思いやりの心や、互いに協力する心を育んでいく。 特別支援教育の視点からは、一人一人の教育的ニーズに合わせた指導や支援の工夫を試み、個性を伸ばす教育を推進する。 管理職としての危機管理意識を高め、危機の予見・未然防止に努めるとともに、事故や災害等の発生時においては、的確な対応ができる組織をつくる。学校生活においては、児童の生活安全、交通安全、災害安全について指導し、ルールを守ることや児童自身が自分で考えることを大切にする。さらに、保護者や地域の方々とも連携し、児童が生涯にわたって自身の安全を守るとともに、他者や社会の安全についても考えることができるようにする。 **３　保護者・地域と連携・協力する学校づくり** 地域学校協働本部を組織し、地域協力者による授業参加や支援を強化する。また、体験的活動を取り入れて、学校行事の充実を図る。学校ホームページ、メール、学校だよりなどを通して、学校からの情報を積極的に発信する。また学校評価等の感想や意見をもとに、よりよい学校づくりに向けて改善を図る。

【本年度の重点課題】

★確かな学力の向上

１　基礎的・基本的な知識及び技能の着実な習得

〇各種調査の結果を活用し、授業改善プランに基づいた指導を充実させる。また、一人一人の習得状況を把握し分析をして、個に応じた指導の充実を図る。

〇朝学タイムや家庭学習において「東京ベーシックドリル」に継続的に取り組ませ、診断テストを５・７・１２月に行い、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図る。

２　思考力・判断力・表現力の向上

〇様々な体験的活動を取り入れたり、問題解決的な学習、探求的な学習、教科横断的な学習を進めたりする。問題解決的な学習や体験を重視した学習を推進し、児童の思考力・判断力・表現力を育む指導の工夫をする。

３　主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

〇年間を通して、全教員が主体的・対話的で深い学びの充実を目指した授業を行う。

４　学習規律の確立と学習習慣の定着化

〇全校で「学び方スタンダード」を徹底し、児童に学びの構えを身に付けさせるようにする。

〇「亀高家庭学習スタンダード」を家庭に周知し、年間を通して、児童一人一人が主体的に予習や復習、自主学習等ができるようにする。

５　情報活用能力の向上と「亀高小スタイル」の確立

〇学校や家庭において ICT 機器を効果的に活用することにより、児童の情報活用能力を育成する。

〇ICT を有効に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていく。

〇児童の家庭での予習・復習に学習クラウドサービスを活用する。

６　校内研究の充実による組織的な授業改善

〇校内研究を国語科に絞り、年間を通して講師を招聘し、全教員で組織的・計画的に授業改善を図る。講師による講師講演を２回、授業研究を６本実施する。

Ⅲ　経営目標

重点領域１	確かな学力の向上　～思考力・判断力・表現力の育成～	
中期経営目標	自分で考え、判断し、表現しようとする児童の育成	
短期経営目標	１　思考力・判断力・表現力を育む指導の工夫 ２　学習規律の確立と基礎・基本の徹底 ３　情報活用能力の向上 ４　学習習慣の定着化	
項目	努力目標(教師側)	成果目標(こども側)
１	○校内研究を算数科とし、講師を招聘しての講演会２回と年間６本の授業研究を実施する。問題解決的な学習について研究し、「思考力・判断力・表現力」を育む指導の工夫をする。	○9 割以上の児童が、学校評価アンケートの「思考力・判断力・表現力」に係る項目で肯定的回答をする。
２	○朝学タイムや家庭学習において「東京ベーシックドリル」に継続的に取り組ませ、診断テストを５・７・１２月に行い、基礎的・基本的な知識及び技能の着実な習得を図る。	○８割以上の児童が、「東京ベーシックドリル」の問題を８割以上正解する。
３	○学校と家庭で日常的に ICT を活用させ、児童の情報活用能力を向上させる。	○9 割以上の児童が、学校評価アンケートにおける「情報活用能力」に係る項目で肯定的回答をする。
４	○「家庭スタンダード」を設定し、全学年で共通理解のもと、家庭との連携を図り、目標時間の家庭学習を定着させる。	○９割以上の児童が学校評価アンケート「家庭学習」に係る項目で肯定的回答をする。
重点領域　２	豊かな心の育成　　～感性豊かであたたかい心の育成～	
中期経営目標	自分も他の人も大切にする児童、感性豊かで創造性があふれる児童の育成	
短期経営目標	１　道徳・人権尊重の視点に立った学習活動の推進 ２　感性・表現力の育成 ３　情報モラルに関する児童の意識の向上	
項目	努力目標(教師側)	成果目標(こども側)
１	○「いじめに関する授業」を各学級年間３回、全校での「いじめの標語づくり」を年間１回行い、児童のいじめに関する意識の向上を図る。保護者に対して、迅速かつ丁寧な説明を行う。	○9 割以上の児童が、学校評価アンケート「友達とのかかわり」に係る項目で肯定的回答をする。
２	○全校での「読書」の取組、全校児童における「百人一首大会」、外部講師による「俳句教室」を実施し、豊かな心を育む。	○9 割以上の児童が学校評価アンケートの「読書」「俳句や百人一首」に係る項目で肯定的回答をする。
３	○特別の教科道徳等において、情報モラルに関する授業を各学級年間２回、全校情報モラル集会を年間２回、朝学習時における情報モラル学習を年間２回実施し児童の意識を向上させる。	○９割以上の児童が学校評価アンケートの「情報モラル」に係る項目で肯定的回答をする。

重点領域　3	健やかな体の育成　　～運動能力・体力の向上～	
中期経営目標	健康への関心や「運動することは楽しい」という気持ちをもった健康志向のある児童の育成	
短期経営目標	１　メディアとのかかわりについての児童の意識の向上 ２　学校全体で取り組む体力向上 ３　オリンピック・パラリンピック教育の継続	
項目	努力目標(教師側)	成果目標(こども側)
1	○保護者と連携した「セレクトメディアチャレンジ」を毎月実施し、児童が自分自身でメディアの活用について考えられるよう指導する。	○9 割以上の児童が、学校評価アンケート「メディアとのかかわり方」に係る項目で肯定的回答をする。
2	○持久走旬間、なわとび旬間を設定し、目標値に向けた取り組みを行い、児童が運動に慣れ親しむようにする。	○９割以上の児童が、学校評価アンケート「持久走・なわとび」に係る項目で肯定的回答をする。
3	○オリンピック・パラリンピック教育の継続として、全児童が年間１回以上「ボッチャ」に取り組み、「ボッチャ」に親しむ。	○９割以上の児童が、学校評価アンケートで「ボッチャ」に係る項目で肯定的回答をする。

重点領域　4	特色ある教育活動の充実	
中期経営目標	保護者・地域の方々が児童の学習の様子に関心をもち期待をする教育活動の展開	
短期経営目標	１「わんぱくの森」を生かした外部人材による体験的学習の計画的・継続的な実施	
項目	努力目標(教師側)	成果目標(こども側)
1	○地域学校協働本部等と連携し、２年生「カブトムシふれあい学習」１回、３年生「ヤゴレスキュー・トンボ(幼虫)の飼育」、1～4 年生「みどりの教室」４回、５年生「田んぼの学校」４回、３・４年生「森の清掃活動」各学年１回を実施し、わんぱくの森の自然や生き物に親しむ。	○9 割以上の児童が、学校評価アンケート「わんぱくの森」に係る項目で肯定的回答をする。